

「ブナの森から農業と農村を考える」

担当教員名 田中 勉

1 コースの概要

日 程	2014年8月18日（日）～21日
場 所	新潟県上越市吉川区（旧 吉川町）
参加人数	19名

2 コースの目的

このFSの目的は、農業と農村についてよく見て考えることです。農業は自然環境を利用して成り立つ産業であると同時に、天候など人間の力ではいかんともし難い条件に左右される側面もあります。自然環境に大きく制約されながら、自然の恵みを受けて食糧を生産しています。

日本の農業は衰退が指摘されて久しく、農村は過疎と高齢化そして後継者難に苦しんでいると言われていいます。それは本当だろうか？ 自分の目で確かめてみよう。徹底的に見る・聞く・考えることをめざします。

3 事前学習

現地では何を見るか・何を尋ねるか、を明確にするための準備として①日本の農業の現状、②吉川区の概要、③食料・農業・農村基本法、④中山間地域等直接支払制度ほかの交付金制度、⑤農業法人による集落営農、などについて文献・資料を用いて学びました。また、「質問したいこと・知りたいこと」の項目づくりグループワークを行い、文書化して事前に現地関係者に送りました。

4 行程（内容）

1日目

昼までに現地の宿泊施設に集合、東京から3時間半程度で到着します。昼食後に「開講式・オリエンテーション」からスタート。まず、吉川区と農業の現況について市職員から説明を受け、「上越市の農業政策」に関する講義で考えるべき課題の提示を受け、その後、吉川の自然と農業をコンパクトに示す「田んぼの学校」（水辺のビオトープ）を見学します。ブナ林の中を歩き、そこから流れ出る水をためる溜め池、水路にはカワニナもいます。ビオトープではタガメやメダカなども観察できます。夜は、満天の星空の下で花火に

興じました。

2日目

この日のテーマは「水の流れをたどる旅」。マイクロバスで区内を山から日本海まで移動しました。元の人々に親しみをこめて「尾神さん」と呼ばれる尾神岳のブナの森を抜けて吉川の流れに沿って下り、途中、田んぼへ水を引くための「堰」や「用水路」を見学し、用水利用と集落形成の結びつきや集落間の関係について学びました。

午後は、「溜池」と、その水を利用するための施設である「ファームpond」や「揚水機場」を見学し、川から取水が困難な地形にある田んぼの水確保の技術と仕組みについて説明を受けました。今回は、参加者からの要望に応じて日本海の浜辺まで足を伸ばし、夏の太陽と青空、雄大な海を満喫しました。

帰途、ブナの森の湧水に立ち寄り、冷たくおいしい湧き水でのどを潤しました。

宿舎に戻り、夕食は地元関係者との交流会です。期間中お世話になる方々とパーベキューを楽しみながら多くのことをお聞きする機会となりました。

3日目

「集落営農と棚田での米づくり」がテーマです。午前中は、平場（ひらば）の大規模圃場で集落営農を行っている「竹直生産組合」を訪問、集落単位で農業を行う背景・現状・今後の展望について説明を受けました。また、「田んぼのベンツ」と呼ばれる大型農業機械などの見学も行いました。その後、JAが運営する米の貯蔵施設「カントリエレベーター」を訪ね、収穫から出荷までのプロセスを学びました。

午後は、区内の酒蔵「杜氏の郷」を訪問、酒づくりの工程について設備を見ながら学んだ後、「東田中生産組合」を訪ね、小規模な集落営農の現状を学び、農機



上越市の農業政策について、真剣に講義を聴く



堰の見学



農家の方と語らう

具の見学もしました。

その後、山間部にある川谷地区へ移動する予定でしたが、豪雨のため山間部の道路が通行止めになったため宿舎に戻り、訪ねて来てくださった農家の方々と囲んで「棚田の農業」について話しをうかがい、参加者からのさまざまな質問に答えていただきました。棚田の見学と楽しみにしていたダイコンの種まき体験は中止となり残念でしたが、条件不利地域と言われる山間地農業の現実をじっくりうかがうことができ、理解を深めることができました。自然に左右される農業の一端を垣間見た感じがした午後でした。

4日目

午前中、山間地集落の現状と課題について、市の「集落づくり推進員」のかたに講義していただいた後、FS期間中の各所での見学を通して疑問に思ったこと、尋ねてみたいことについての「まとめの質問会」でプログラムを終了、昼食後に解散、帰途につきました。

5 事後学習

秋学期開始時に事後学習会を開き、参加者各自が吉



日本海の海辺にて

川で考えたことを発表し合い、まとめの学習を行いました。また、各自の課題に関するレポートを提出しました。

6 雑感

「行くときに見た田んぼが帰りには違って見えた」という参加者の感想がこのFSの全てを物語っています。

学生の声

吉川の農業と自然環境



3年 大熊 陽人

私が吉川フィールドスタディに参加して特に印象的だったことは、平場・中山間地といった農地の条件によって用いる技術が大きく異なるということでした。これまでは作物によって農作業の方法が異なるということだけしか考えていなかったもので、土地条件という視点について初めて気づかされました。

また、田んぼに用いる農業用水の取り扱いに関することからは、ここでしか学ぶことが出来なかったことだと思いました。「米づくりには水が大切だ」、これは何度も聞かされた言葉です。川沿いには「堰」、山間の傾斜地や水源から離れたところでは「溜め池」と、大切な水を余すことなく有効に利用する仕組みがきちんと整えられていることを知り、米作りに取り組む農家の人々の思いを感じることができました。

「水の整備」だけでなく、農業を行っていく上でのさまざまな環境整備は多くの手間や時間がかかることについて実際に現地を見て学べたことも大きな収穫でした。そして、そのようなお忙しい中、私たちに貴重なお話しをしてくださった関係者の方々への感謝は尽きません。